

平成 30 年度 事業計画書

I 実施方針

1. 当公益財団法人動物臨床医学研究所は“学術及び科学技術の振興”として本年度は第 39 回動物臨床医学会を中心とした活動と“人と動物の共生の探求及び動物愛護思想の啓発・普及”を動物保護施設であるアミティエを通して実施し、さらにそれらの二大事業に関連した諸事業のさらなる充実を目指して、着実な事業展開を実施する。
2. “学術及び科学技術の振興”を目的とする主事業の「動物臨床医学会」は、平成 30 年度に第 39 回年次大会を迎える。第 36 回年次大会よりスタートした「獣医総合臨床認定医制度」も今年度 4 年目となるため、平成 30 年度第 39 回年次大会までに認定試験問題作成委員により試験問題を作成し、試験に対し具体的な対応をする。
3. 臨床獣医学で大きく諸外国に遅れをとっている分野は、遺伝病である。我国では、遺伝病に対する研究や、検査体制が不十分であるため昨年度(平成 29 年度)の事業計画又第 38 回動物臨床医学会年次大会の中に「動物遺伝子疾患研究会」を立ち上げ設立記念シンポジウムを開催した。本年度(平成 30 年度)は、さらに鹿児島大学等との共同研究を進めることにする。
4. 全国の動物看護師及び動物看護専門学校に所属している教員の資格は未だに不定で、その上、教育機関の教員の質には大きなギャップがある。昨年度に引き続き本年度もパラメディカル分野の向上発展に寄与する事業を進める。具体例として一般社団法人日本動物看護職協会との間で、パラメディカル分野に関連するセミナー等を協同開催する。
5. 動物医療における診断・治療機器の開発と技術の確立を昨年に引き続き推し進める。
6. “人と動物の共生の探求及び動物愛護思想の啓発・普及”事業の充実のため、動物保護施設“人と動物の未来センター・アミティエ(鳥取県動物愛護センター)”の更なる施設の充実を図る。本年度は、先ず緊急を要する研修棟完成後の周辺整備と、猫舎の増設、さらにドッグランの柵の改修を実施する。
7. 獣医師や動物関連の職域の方々に役立つ獣医学専門書等の発刊。

II 事業別の対応

公益目的事業 1

学術及び科学技術の振興を目的とする事業

- 1) 獣医学術の振興・普及及び向上のため、動物臨床医学会の開催及び運営、動物臨床医学雑誌及び、動物臨床医学会年次大会プロシーディングを発行し、他学会、研究会との連携及び運営支援、獣医学術における功労者表彰や研究会等の運営を行う。

さらに、平成 27 年度立ち上げた「獣医総合臨床認定医」制度を広めると共に、より学会の充実を諮る。(別紙 P20- P31 参照)

a) 動物臨床医学会の開催及び運営

平成 30 年度の第 39 回動物臨床医学会年次大会は、獣医総合臨床認定医制度の 4 年目を迎え、昨年に引き続き受講対象分科会の企画内容を考慮する。

本年度は昨年に引き続き、市民公開シンポジウム(平成 30 年度科学研究費補助金 研究成果公開発表)(申請中)“あなたとペット動物の災害対策—特にペットとの同行避難の為に—”を開催し、“人と動物の接点”を模索する。

日時：平成 30 年 11 月 16 日(金)-18 日(日)

場所：大阪国際会議場〔グランキューブ大阪〕大阪市北区中之島 5-3-51

b) 学会企画実行委員会の開催及び運営

- ・昨年度に引き続き、21 分科会を 5 分野(別表 1)に分類し、学会企画実行委員会が招集し、その内容を分科会毎に企画立案する。その内容の検討に際しては十分に獣医総合臨床認定医制度を考慮したものとする。

(別表 1)

小動物分野	1. 神経分科会	10. 皮膚分科会
	2. 呼吸器分科会	11. 内分泌分科会
	3. 循環器分科会	12. 血液・免疫分科会
	4. 腎泌尿器分科会	13. 腫瘍分科会
	5. 生殖器・繁殖分科会	14. エキゾチックペット分科会
	6. 運動器分科会	15. 理学療法分科会
	7. 消化器分科会	16. 行動学分科会
	8. 歯科分科会	17. 経営分科会
	9. 眼科分科会	18. 感染症分科会
		19. 画像診断分科会
野生動物分野	野生鳥獣分科会	
産業動物分野	産業動物分科会	
スタッフ分野	動物病院スタッフ・VT 分科会	
獣医学・医学関連分野		

c) 購読会員の管理と把握(入会、退会)及び会員増強

購読会員(学会員)の減少が数年続いているが、その要因を検討し、各要因に対しそれぞれの対応策を実施する。その具体的な計画の 1 つが平成 27 年度に立ち上げた、「獣医総合臨床認定医」制度である。当制度をより確立するため、昨年に引き続き学会内容をより早期に決定し、その内容を広く周知して頂く対策をとる。

- d) 平成 30 年度より学会内の「獣医総合臨床認定医委員会」の元に試験問題作成、第 39 回動物臨床医学会年次大会において受験資格者に対し、試験を実施する。

- e) 動物臨床医学雑誌の出版
- ・動物臨床医学会の雑誌として、年4回(3月、6月、9月、12月)出版。
 - ・雑誌編集委員会の開催(年1回:動物臨床医学会開催時に)
- f) 動物臨床医学会年次大会プロシーディングの発行
- g) 合同カンファレンス(知の市場)抄録集の発行
- 合同カンファレンス開催に合わせて発刊(年10回)
- h) 他学会、研究会等との連携及び運営支援
- 積極的に動物臨床医学会との共催を奨励し、併せて他学会等との共催及び運営支援をする。
- ・日本獣医内科学アカデミーへの共催(小動物臨床血液研究会)
 - ・日本獣医臨床眼科研究会との共催(第39回動物臨床医学会年次大会)
 - ・日本小動物歯科研究会との共催(第39回動物臨床医学会年次大会)
 - ・日本小動物内視鏡推進連絡会との共催(第39回動物臨床医学会年次大会、(公財)動物臨床医学研究所卒後教育セミナー)
 - ・NPO法人野生動物救護獣医師協会(WRV)との共催(第39回動物臨床医学会年次大会)
 - ・日本獣医内視鏡外科研究会との共催(第39回動物臨床医学会年次大会)
 - ・日本獣医救急医療研究会との共催(第39回動物臨床医学会年次大会)
 - ・日本獣医動物行動研究会との共催(第39回動物臨床医学会年次大会)
 - ・一般社団法人日本動物看護職協会との共催(第39回動物臨床医学会年次大会)
- i) 獣医学術における功労者表彰
- 選考委員会より推薦された獣医学術の向上、普及に著しく貢献する業績をあげた者及び、優秀な若手研究者に対し、動物臨床医学会年次大会にてAnimal Clinical Research Foundation Award(ACRFA)を授与し、表彰するものであり、我国の獣医学術のさらなる発展を図る事を目的とする。平成30年度も選考委員会より2名候補者の推薦を受ける。
- j) 研究会等の開催・運営
- 獣医学知識の技術の高位平準化に向けて各種の研究会を開催する。
- ・小動物臨床血液研究会
 - ・動物のいたみ研究会
 - ・小動物臨床栄養学研究会
 - ・人と動物の比較疾患研究会
 - ・動物遺伝子疾患研究会
- 上記の5研究会は各研究会において独自に学会年次大会を中心に事業を計画立案し、当公益法人の一事業として運営する。

- 2) 獣医師、動物医療従事者の人材育成の推進のため、卒後教育セミナー、合同カンファレンス(知の市場)等を開催し、獣医師、動物医療従事者の研修受け入れを行う。
 - a) 獣医師、動物医療従事者の人材育成の推進のため、卒後教育セミナー、合同カンファレンス(知の市場)の開催
 - b) 獣医師、動物医療従事者等の研修受け入れ
 - c) 海外からの特別招聘教授、客員研究員の受け入れ
- 3) 臨床獣医学研究の推進のため、診断及び内科的・外科的治療法の開発研究の推進
- 4) 獣医学術振興普及のため国際学術交流の推進を行う
第 39 回動物臨床医学会には、従来通り海外からの獣医師の参加が計画されている。
- 5) 講演会、学会への出席及び講師の派遣
講演会、学会への出席要請や講師依頼があれば積極的に協力する。

公益目的事業2

公衆衛生の向上並びに児童及び青少年の健全な育成を目的とする事業

- 1) 獣医事の向上及び普及啓発のため
動物との接し方、飼育方法等を一般に普及させる。
犬のしつけ教室、市民相談コーナー、市民公開講座の開催
 - ・サポーター、ペアレント制による入会金及び寄付の受入れ(東京事務所)、物品の寄付(“人と動物の未来センター・アミティエ(鳥取県動物愛護センター)”)
 - ・「ふるさと納税(倉吉市)」を利用した「倉吉市動物愛護事業補助金」の交付を受け、事業の充実を図る。
 - ・チャリティイベント等の普及啓発活動

- 2) 青少年に対する動物の保護・愛護思想の向上のため、学校飼育動物等動物介在活動の支援：幼稚園・小中学校・及び公園等に対する飼育の指導・助言、公開講座、研修会等の開催
 - ・動物の愛護と福祉及び情操教育普及を目的とした「人と動物の会」による動物“人と動物の未来センター・アミティエ(鳥取県動物愛護センター)”のさらなる充実。
 - ・団体見学者(保育所、幼稚園、子供会、小学校、ボーイスカウト等)への対応及び、譲渡前の講習会、犬のしつけ方教室を雨天でも開催可能とするため、建築した研修棟の活用を図る。

- 3) 障害者の支援のため、補助犬(盲導犬等)の育成支援を行う

公益目的事業3

資料及び情報収集・提供事業

- 1) 動物の疾病等に対するQ & Aコーナーを開設する。

- 2) 資料及び情報収集
当公益法人と他機関・他団体・企業等との情報交換（東京シンポジウム）
年2回（原則的に3月と7月）東京シンポジウムの名称のもと、動物関連業界各社との情報及び意見交換を行う

- 3) ニュースレターの発刊を行う。

公益目的事業 4

地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的とする事業

- 1) 野生動物の保護及び管理。自然復帰のための野生動物センターの維持・管理

- 2) 動物愛護及び情操教育のため、動物ふれあいセンター“人と動物の未来センター・アミティエ(鳥取県動物愛護センター)”の維持・管理
 - ・鳥取県、鳥取市より委託金の交付を受け、事業の充実を図る。
 - ・“人と動物の未来センター・アミティエ(鳥取県動物愛護センター)”周辺地の里山の整備を行い、人(特に子供)と動物、自然とが触れ合う環境を整えるとともに、建築した研修棟の活用を図る。

収益事業1

公益目的事業の推進に資するために行う出版事業

- 1) 一般書、獣医学専門書等の出版及び販売
- 2) 学会出版等に付随する広告・展示等

収益事業2

公益助成委託事業及び受託試験事業

- 1) 新薬開発に係る臨床受託試験
- 2) 新しい診断法及び治療法の開発に係る受託試験
- 3) 診断及び治療機器開発に係る受託試験

収益事業3

獣医師人材の派遣

- 1) 動物病院への獣医師の出向

法人会計事業・その他

- 1) 賛助会員の管理

当公益法人の事業に賛同し、賛助会員に加入して頂いた個人及び団体の会員と情報を共有し、動物業界が一丸となり事業推進を図り事業の充実を目指す。

- 2) 親睦会（地引網）の開催

日時：平成30年6月24日(日)

場所：北栄海岸（鳥取県）

- 3) 親睦会（反省会）の開催

日時：平成30年12月8日(土)

場所：未定